

立命館大学大学院
2018年度実施 入学試験

博士課程 前期課程

社会学研究科
応用社会学専攻

入試方式	実施月	社会学	
		ページ	備考
一般入学試験	9月	P.1	
	2月	P.2	
社会人入学試験	9月		
	2月		
外国人留学生入学試験	9月	P.1	
	2月	P.2	
学内進学入学試験	7月		
	9月		
	2月		
APU特別受入入学試験	9月		
	2月		
飛び級入学試験	2月		

立命館大学大学院
2018年度実施 入学試験
博士課程 後期課程

社会学研究科
応用社会学専攻

入試方式	実施月	社会学		外国語(英語)	
		ページ	備考	ページ	備考
一般入学試験	9月	P.3		P.5～	
	2月	P.4		P.7	
社会人入学試験	9月	×			
	2月	P.4			
外国人留学生入学試験	9月	×		P.5～	
	2月	P.4		P.7	

【2019 年 4 月入学】社会学研究科応用社会学専攻 博士課程前期課程 入学試験問題（2018 年 9 月実施）

社会学

＜受験上の注意事項＞

1. 答案用紙の記入の仕方

研究科名	専攻名	課程	受験科目名	受験番号	氏名
社会学研究科	応用社会学 専攻	前期課程	社会学	自分の 受験番号	自分の氏名

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

持ち込み許可物件はなし。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

－ 社会学 －（横書き）

問1 次の 20 の語句から 3つを選択し、それぞれの内容について説明しなさい。

1. 文化資本
2. セックス／ジェンダー
3. 方法論的個人主義／方法論的集合主義
4. 機械的連帯と有機的連帯
5. 他人指向的人間
6. 機会の不平等／結果の不平等
7. シカゴ学派における同心円理論
8. 京都議定書
9. 再生可能エネルギー
10. 女性の就労における M 字型カーブ
11. 沈黙の螺旋
12. エンコーディング／デコーディング
13. メディア・イベント
14. アーカイブの公共性
15. 社会保障サービス給付における普遍主義／選別主義
16. 社会福祉におけるエンパワーメント・アプローチ
17. コミュニティケア
18. 社会福祉におけるアドボカシー
19. ニュー・スポーツ
20. オリンピズム

問2 次の 4 つの問題から 1つを選択し、10 行以上で、考えるところを論じなさい。

1. 社会の少子化傾向は、人々間の格差（地域間格差、世代間格差など）にどのような影響をもたらす可能性があるか。少子化と格差の関係について、論じなさい。
2. グローバル化と日本人の働き方の変化について、論じなさい。
3. 具体的な歴史的変遷についてふれながら、メディア環境の変化について、論じなさい。
4. 社会的排除と貧困の関係について、論じなさい。

【2019 年 4 月入学】社会学研究科応用社会学専攻 博士課程前期課程 入学試験問題（2019 年 2 月実施）

社会学

＜受験上の注意事項＞

1. 答案用紙の記入の仕方

研究科名	専攻名	課程	受験科目名	受験番号	氏名
社会学研究科	応用社会学 専攻	前期課程	社会学	自分の 受験番号	自分の氏名

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

持ち込み許可物件はなし。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

— 社会学 —（横書き）

問 1 次の 20 の語句から 3 つを選択し、それぞれの内容について説明しなさい。

1. 法則定立的／個性記述的
2. ハビトゥス
3. シャドウワーク
4. 第一波フェミニズム／第二波フェミニズム
5. ラベリング理論
6. 属性主義と業績主義
7. 持続可能性
8. 汚染者負担の原則
9. 集団の拡大と個性の発達
10. 世俗化
11. 議題設定
12. 集団極化
13. 想像の共同体
14. メディア論における技術決定論
15. 社会保障給付における貧困の罟
16. 福祉多元主義
17. ナショナル・ミニマム
18. ソーシャルワークにおけるエコ・システム理論
19. ライフスタイルスポーツ
20. ユベロス商法

問 2 次の 4 つの問題から 1 つを選択し、10 行以上で、考えるところを論じなさい。

1. 気候変動は、人々の間の格差（所得格差、世代間格差、地域間格差、国際間格差など）にどのような影響をもたらす可能性があるか。気候変動と格差について論じなさい。
2. 現代日本におけるワーク・ライフ・バランスに関する課題を明らかにしたうえで、その背景・要因などを分析し、処方箋を論じなさい。
3. メディアと公共圏について、論じなさい。
4. 社会的排除と貧困の関係について、論じなさい。

【2019 年 4 月入学】社会学研究科応用社会学専攻 博士課程後期課程 入学試験問題（2018 年 9 月実施）

社会学

＜受験上の注意事項＞

1. 答案用紙の記入の仕方

研究科名	専攻名	課程	受験科目名	受験番号	氏名
社会学研究科	応用社会学 専攻	後期課程	社会学	自分の 受験番号	自分の氏名

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

持ち込み許可物件はなし。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

－ 社会学 －（横書き）

問1 次の20の語句から1つを選択し、可能な限り自身の今後の（もしくは、これまでの）研究テーマに引きつけて、論じなさい。

1. 文化資本
2. セックス／ジェンダー
3. 方法論的個人主義／方法論的集合主義
4. 機械的連帯と有機的連帯
5. 他人指向的人間
6. 機会の不平等／結果の不平等
7. シカゴ学派における同心円理論
8. 京都議定書
9. 再生可能エネルギー
10. 女性の就労におけるM字型カーブ
11. 沈黙の螺旋
12. エンコーディング／ディコーディング
13. メディア・イベント
14. アーカイブの公共性
15. 社会保障サービス給付における普遍主義／選別主義
16. 社会福祉におけるエンパワーメント・アプローチ
17. コミュニティケア
18. 社会福祉におけるアドボカシー
19. ニュー・スポーツ
20. オリンピズム

問2 次の4つの問題から1つを選択し、10行以上で、考えるところを論じなさい。

1. 社会の少子化傾向は、人々との格差（地域間格差、世代間格差など）にどのような影響をもたらす可能性があるか。少子化と格差の関係について、論じなさい。
2. グローバル化と日本人の働き方の変化について、論じなさい。
3. 具体的な歴史的変遷についてふれながら、メディア環境の変化について、論じなさい。
4. 社会的排除と貧困の関係について、論じなさい。

【2019 年 4 月入学】社会学研究科応用社会学専攻 博士課程後期課程 入学試験問題（2019 年 2 月実施）

社会学

＜受験上の注意事項＞

1. 答案用紙の記入の仕方

研究科名	専攻名	課程	受験科目名	受験番号	氏名
社会学研究科	応用社会学 専攻	後期課程	社会学	自分の 受験番号	自分の氏名

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

持ち込み許可物件はなし。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

－ 社会学 －（横書き）

問 1 次の 20 の語句から 1つを選択し、可能な限り自身の今後の（もしくは、これまでの）研究テーマに引きつけて、論じなさい。

1. 法則定立的／個性記述的
2. ハビトゥス
3. シャドウワーク
4. 第一波フェミニズム／第二波フェミニズム
5. ラベリング理論
6. 属性主義と業績主義
7. 持続可能性
8. 汚染者負担の原則
9. 集団の拡大と個性の発達
10. 世俗化
11. 議題設定
12. 集団極化
13. 想像の共同体
14. メディア論における技術決定論
15. 社会保障給付における貧困の罣
16. 福祉多元主義
17. ナショナル・ミニマム
18. ソーシャルワークにおけるエコ・システム理論
19. ライフスタイルスポーツ
20. ユベロス商法

問 2 次の 4 つの問題から 1つを選択し、10 行以上で、考えるところを論じなさい。

1. 気候変動は、人々の間の格差（所得格差、世代間格差、地域間格差、国際間格差など）にどのような影響をもたらす可能性があるか。気候変動と格差について論じなさい。
2. 現代日本におけるワーク・ライフ・バランスに関する課題を明らかにしたうえで、その背景・要因などを分析し、処方箋を論じなさい。
3. メディアと公共圏について、論じなさい。
4. 社会的排除と貧困の関係について、論じなさい。

【2019年4月入学】社会学研究科応用社会学専攻入学試験問題（2018年9月実施）

外国語（英語）

＜受験上の注意事項＞

1. 答案用紙の記入の仕方

研究科名	専攻名	課程	受験科目名	受験番号	氏名
社会学研究科	応用社会学専攻	後期課程	外国語（英語）	自分の受験番号	自分の氏名

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

一般的な英語辞書の持込を認めますが、辞書機能付の電子手帳等や情報通信機器の携行は認めません。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

－ 外国語（英語） －（横書き）

下記の文章はある本からの引用で、グローバルな社会運動について解説したものである。文章を読み、以下の問題に日本語で答えなさい。

The growth and impact of the environmental movement has been quite dramatic. As environmental problems were almost by definition global in their scope, the environmental movement became globally organized. Through effective organization and lobbying, environmental NGOs acquired official recognition as legitimate participants in international policy-making, already outnumbering national representatives by around seven to one at the 1992 Earth Summit (Yearley, 1996). The movement has achieved some spectacular successes against particular governments, most notably when France called off its nuclear testing programme, after environmentalist attempts to halt the 1995 Pacific tests.

① The strength of global movements can, however, also be their weakness. Their global network does put them beyond the reach of individual nation states and enables them to mobilize international opinion against a government. They can, therefore, be very effective in stopping particular government actions, but to have a long-term impact on policy they need to penetrate the structures of the decision-making and resource-controlling state. They are much less effective at this. Green political parties have remained peripheral, and this applies also to their international role. The movement may be highly vocal, but at international meetings it can be shut out of the negotiations by national representatives.

During the 1990s, sections of the environmentalist movement joined up with the descendants of older movements in anti-globalization and anti-capitalist demonstrations. These brought together environmentalists, socialists, anarchists, and other campaigning groups in a common opposition to the policies of the World Trade Organization (WTO), the World Bank, and other such organizations. There is not really an anti-globalization movement as such but rather a network of radical groups united only by their hostility to global capitalism.

② At the 'Battle for Seattle' in November 1999, when radicals demonstrated at a meeting of the World Trade Organization, the Internet played a key role in mobilizing so many different groups in the same place at the same time. Another such demonstration took place at the G8 meeting in Edinburgh in June 2005. The authorities have, however, learned from experience. They have developed techniques for sealing off demonstrations with security forces, while the targeted organizations have moved to more secure and more remote venues for meetings.

According to Held and McGrew (2007, p.149), a 'global redistributive politics is in the making.' Nation states are no longer the main agents of this. It operates through movements, such as the Trade Justice Movement, and NGOs. Held and McGrew (2007, p.150) claim that when these organizations 'can exploit international public opinion, divisions within the G8, and between the G8 leaders and their publics, significant advances can be made in

promoting a progressive political agenda'. An example of this would be the impact of the 'Make Poverty History' campaign on the 2005 Edinburgh G8 meeting.

【出典】

© James Fulcher and John Scott 2011

Fulcher, J. and Scott, J. (2011). *Sociology*. Oxford: Oxford University Press, pp.633-634.

Reproduced with permission of the Licensor through PLSclear.

問1 下線部①、②を和訳しなさい。

問2 本文では、環境運動 NGO／環境運動家 (Environmental NGO／Environmentalist) が関与した二つの種類の社会運動について言及がある。本文から分かる範囲でそれぞれどのような活動であるか、またその活動の結果も含めて「地球サミット (Earth Summit)」に関わる活動と「世界貿易機関 (World Trade Organization)」などに関わる活動に分けて述べなさい。

【2019年4月入学】社会学研究科応用社会学専攻入学試験問題（2019年2月実施）

外国語（英語）

＜受験上の注意事項＞

1. 答案用紙の記入の仕方

研究科名	専攻名	課程	受験科目名	受験番号	氏名
社会学研究科	応用社会学専攻	後期課程	外国語（英語）	自分の受験番号	自分の氏名

2. 解答方法

解答は答案用紙に記入すること。なお、裏面の使用や用紙の追加は認めない。

3. 持ち込み許可物件

一般的な英語辞書の持込を認めますが、辞書機能付の電子手帳等や情報通信機器の携行は認めません。

4. その他

問題用紙・メモ用紙も提出すること。

— 外国語（英語） —（横書き）

下記の文章はある本からの引用で、社会学の視点から「観光」という現象について解説したものである。文章を読み、以下の問題に日本語で答えなさい。

Most secondary identities—identities of occupation, class, politics, and religion—have been tied to the boundaries of nation states. This is at its clearest in a person's 'national' identity as British, French, German, American, and so on. But does this still apply in an era of globalization? John Urry (2002) has explored this through an investigation into the ideas of travel and tourism. What does it mean when a person identifies him or herself as a 'tourist': is he or she a 'national' citizen in a 'foreign' country, or is the tourist a distinctively transnational or global identity?

① Tourism is a specifically modern phenomenon that arose with the creation of a distinction between 'work' and 'leisure' in modern societies. In pre-modern societies there was no distinction between paid work and unpaid leisure, and so there was no possibility of travelling for leisure. The journey and the stay that make up a tour or holiday are to places other than the normal places of residence and work, for purposes not directly connected with work, and for a specified period of time. The person who travels in this way adopts a specific identity: that of the tourist. According to Urry, the tourist identity involves the adoption of what he calls the tourist gaze. That is, the tourist is someone who looks on things and places in a particular and distinct way that is not that of the local resident or worker. The tourist gazes on 'sights', recording them in photographs and postcards in order to be able to re-create them in memory at a later date. What the tourist sees, however, is not the 'real' place (whatever that may be), but the image of that place that has been constructed through the various tourist professionals that have arisen around the holiday and travel industries of the modern world.

Tourism initially involved travel within one's own country, except for the very rich. The typical holiday into the first half of the twentieth century was a short break at a seaside resort. As air travel became cheaper in the second half of the twentieth century, foreign holidays became more usual, and foreign travel has increasingly involved travelling great distances and to a greater variety of places.

More than ever before, tourist venues are specifically constructed for the tourist gaze: the clearest examples of this are, perhaps, the various Disneyland resorts. A tourist is separated from his or her normal routines and places of work and residence, and is, at the same time, not a part of the place that he or she visits. The tourist, then, is a detached figure, a cultural nomad in a simulated reality.

The global growth of tourism has meant that the immense international flows of people are, for the most part, flows of tourists. Global realities are constructed through the images present in the tourist gazes. ② Constructions of nationhood are, increasingly, constructions by and for tourists from outside the nation. People's own sense of

national identity reflects the constructions of the global tourist industry, and nations must compete to present themselves in images and as spectacles that will appeal to a large number of visitors. National identity is no longer so closely linked to a sense of territory, but is more closely related to a sense of the image of a particular place. Britain, for example, projects an international image of its history and national heritage. At the same time, the very idea of travel and mobility becomes central to people's identities. They no longer define themselves simply by the places where they live and work; they also define themselves by the places to which they can travel and, therefore, by the very idea of travel and movement.

【出典】

© James Fulcher and John Scott

Fulcher, J. and Scott, J. (2011). *Sociology*. Oxford: Oxford University Press, p.144.

Reproduced with permission of the Licensor through PLSclear.

問 1 下線部の①および②を和訳しなさい。

問 2 本文を踏まえた上で、「The Tourist Gaze（観光のまなざし）」はどのようなものか、また 21 世紀後半における観光現象の変化とはどのようなものか。この 2 つの点について、本文の見解をまとめなさい。